

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤは深いところで多く付着するので施設を沈めすぎないようにしましょう

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは10月22日に奥内沖で1.7個体/m³、10月18日に久栗坂沖で0.6個体/m³、10月16日に野辺地沖で0.8個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) ムラサキイガイ (通称：カラスガイ、シュリ、マルゴ)

ラーバは奥内沖で10月17日に7.5個体/m³、10月22日に12.5個体/m³、久栗坂沖で10月18日に7.8個体/m³、10月25日に5.0個体/m³、野辺地沖で10月16日に0.8個体/m³、川内沖で10月22日に9.4個体/m³見られました(表1)。

(3) サンカクフジツボ (通称：アカガキ)

ラーバは奥内沖で10月17日に3.3個体/m³、10月22日に2.5個体/m³、久栗坂沖で10月18日に3.9個体/m³、10月25日に1.1個体/m³、10月16日に野辺地沖で、10月22日に川内沖とともに1.6個体/m³見られました(表1)。

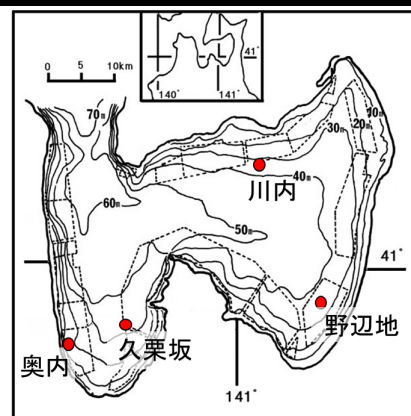


図1 付着生物ラーバの調査地点

表1 ラーバの出現状況		単位: 個体/m ³		
調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ
奥内沖	R6.10.17	0.0	7.5	3.3
	R6.10.22	1.7	12.5	2.5
久栗坂沖	R6.10.18	0.6	7.8	3.9
	R6.10.25	0.0	5.0	1.1
野辺地沖	R6.10.16	0.8	0.8	1.6
川内沖	R6.10.22	0.0	9.4	1.6

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

陸奥湾内の中層の水温はユウレイボヤが産卵する20℃以下となりました。今後、**本格的なラーバの出現と付着が始まる**と思われるので、パールネットに付着している**親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください**。

また、ユウレイボヤは**深いところで多く付着**することが分かっているので、**施設を沈めすぎないように**しましょう。

(2) ムラサキイガイ

冬に向けて出現数が増加する可能性がありますが、**秋から冬生まれのラーバはほとんど付着しない**ことが分かっています。

(3) サンカクフジツボ

付着直前のラーバが**7、8月に多数出現**していたことから、来春の**耳吊り作業の効率が低下**すると思われます。

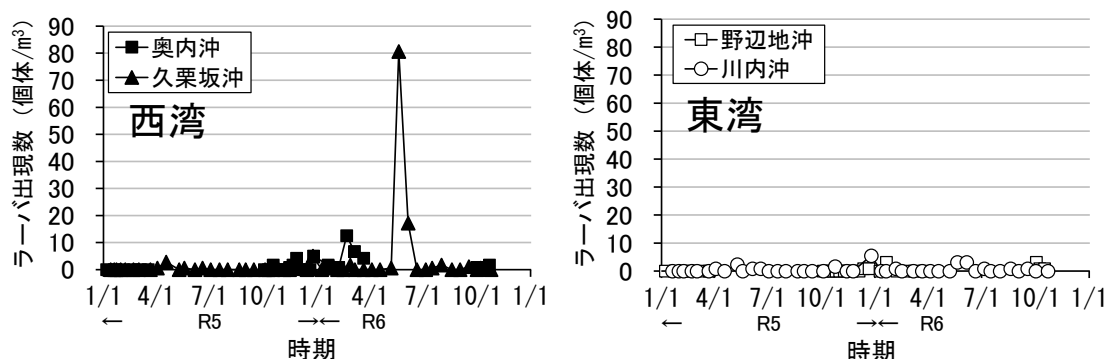


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(令和5年1月～令和6年10月)
・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾25個体/m³、東湾10個体/m³

